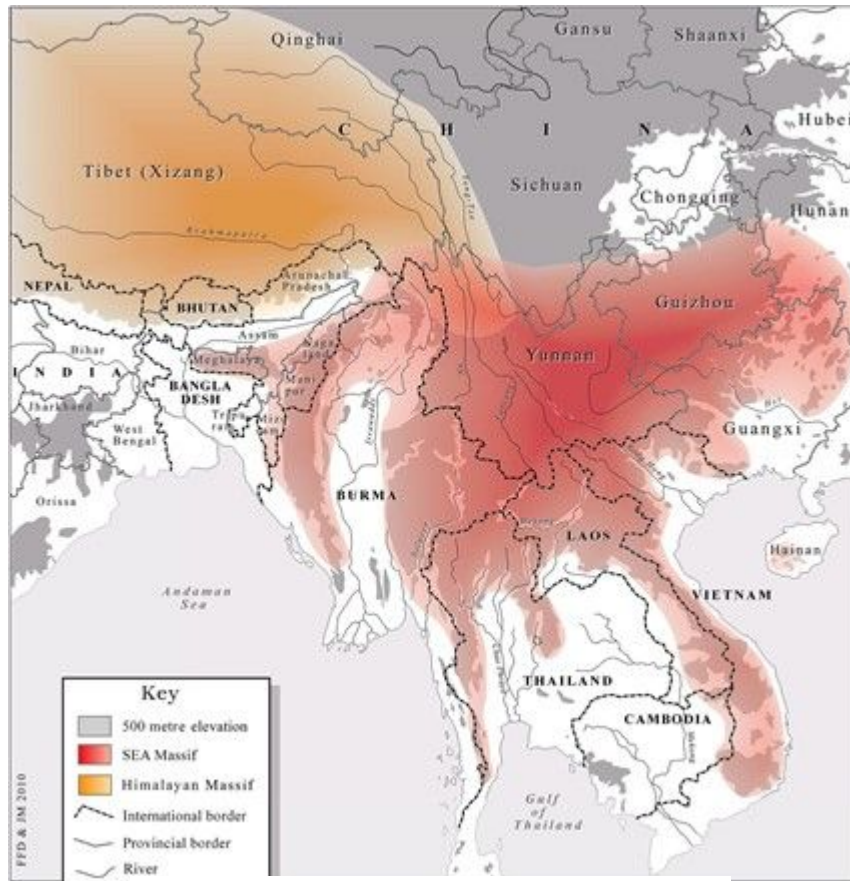


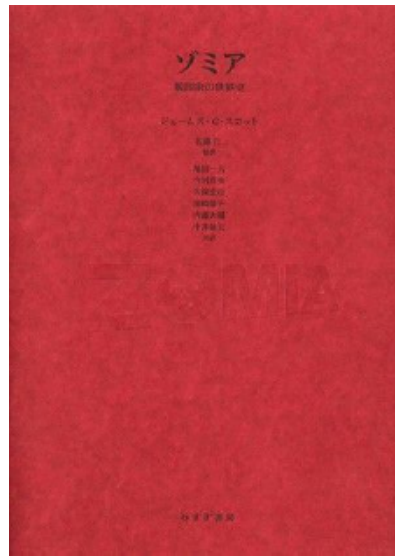
## ジェームズ・C・スコット 『ゾミア—脱国家の世界史』

### 二文字屋脩

従来の地域研究があまりにも国家を前提としてきたことへの反省から、オランダの学者ファン・スヘンデルは、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムなどの東南アジア諸国、そして中国南部とインドの一部を含む広大な地域を「ゾミア (Zomia)」と呼んだ。そして政治学者で人類学者でもあるジェームズ・C・スコットは、この地域に暮らす少数民族（山地民）は、国家の周辺部に追いやられた弱者ではなく、統治と収奪を目論む国家から積極的に距離をおくアナーキストだったと主張する。

このような主張が展開される本書は、東南アジア地域研究に新たな地平を切り開くものだったと評される。仮説の域を出ない主張があるなど批判は少なくないが、それでもスコットの主張がその魅力を失わないのは、国家が語る「大きな物語」としての歴史に対して山地民の「小さな物語」を卓越した想像力と洞察力から編纂し、国家を前提にした私たちの歴史認識の相対化とアナーキストとしての新たな山地民像の提示に成功しているからである。





### 出典:

- ジェームズ・C・スコット 『ゾミア—脱国家の世界史』（邦訳：佐藤仁監、みすず書房、2013年）
- James C. Scott, *The Art of Not Being Governed: An Anarchist History of Upland Southeast Asia* (New Haven: Yale University Press, 2009).